

『家族性大腸腺腫症に関する後方視的多施設研究』

に関するお知らせとお願い

大腸癌は最も身近ながんの一つとして社会的関心が高い疾患です。本邦における大腸癌患者数は増加の一途をたどり、近年では日本人の死亡原因の大きな割合を占めています。一方、家族性大腸腺腫症は高い確率で癌化する疾患ですが、非常にまれな疾患であり、通常の大腸癌と比較すると日常診療での認知度も低いのが現状です。

本疾患の研究は日本では十分に進んでおらず、その臨床像や、あるべき診療の方向性として本邦で理解されているものは海外での研究結果が基盤となっています。大腸癌研究会では、2012年に『遺伝性大腸癌診療ガイドライン』初版を発刊し、家族性大腸腺腫症の臨床像や診療の方向性を網羅的に解説しております。しかしながら、それらの根拠となるデータの多くの部分は海外からの報告に依存しております。

このような背景をもとに、大腸癌研究会では、多施設共同研究においてこの問題を解決することとしました。大腸癌研究会には家族性大腸癌の専門家が委員として活動する家族性大腸癌委員会という組織があります。委員施設の症例を集計し、その分析結果に基づき、本邦における家族性大腸腺腫症の臨床像や治療内容の実情・問題点を明らかにすることが本研究の目的です。本研究の成果は今後の『遺伝性大腸癌診療ガイドライン』の改定の基盤になることが期待され、これにより本邦の家族性大腸腺腫症の患者さんおよびその家族、さらには診療にあたる現場の医療関係者に、これまで以上に有益な医療情報を提供することができると考えられます。

本研究は、大腸癌研究会の家族性大腸癌委員会に所属する下記の19施設において2000～2012年に初めて家族性大腸腺腫症の手術を受けられた、約300人の患者さんの入院および外来での既存資料のみを用いる後方視的研究です。今後、研究のためにあらたに患者さんから検体を採取したり、投薬をすることはありません。

■本研究に参加する施設

1. 久留米大学
2. がん研有明病院
3. 国立病院機構大阪医療センター
4. 埼玉医科大学総合医療センター
5. 昭和大学横浜市北部病院消化器センター
6. 防衛医科大学校
7. 愛知県がんセンター中央病院
8. 東京大学
9. がん・感染症センター都立駒込病院
10. 栃木県立がんセンター
11. 東京医科歯科大学
12. 福島県立医科大学
13. 国立病院機構岩国医療センター
14. 兵庫医科大学
15. 国立がん研究センター中央病院
16. 浜松医科大学
17. 岡山大学
18. 慶応義塾大学
19. 広島大学

患者さんの臨床データはカルテ番号等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、その他通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。ご自身の治療経過などの臨床データを研究に使わないでほしい、というご希望があれば、大腸癌研究会までご連絡をいただけますようお願いいたします。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、各施設での診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

家族性大腸癌委員会 委員長

石田 秀行（埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科）

家族性大腸腺腫症(FAP)ワーキンググループ

石田 文生 昭和大学横浜市北部病院消化器センター

上野 秀樹 防衛医科大学校外科学講座

小西 毅 がん研有明病院消化器センター外科

小林 宏寿 東京医科歯科大学医学部附属病院 低侵襲医学研究センター

山口 達郎 がん・感染症センター都立駒込病院外科

お問い合わせの窓口*****

家族性大腸癌委員会 委員長

石田 秀行

連絡先：

埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地

TEL 049-228-3619

FAX 049-222-8865
